

空き家もたらす地域発展の可能性 ～地域共有のアイデアスペース～

長野県立大学 グローバルマネジメント学部

田村ゼミナール（指導教員氏名:田村秀）

代表者:永坂啓

発表者氏名：永坂啓 鈴木悠花 曲尾桜 松本栞 柳沢奈々子

参加者氏名：内山瞳依 大竹陽斗 唐澤真奈 小橋仁心 佐々木孝雄 渡邊杏望

梗概

「人口減少時代の持続可能なまちづくり」というテーマに基づき、私たちは若者の移住・定住を促進する政策を提案する。

上田市には、寺社や温泉、伝統工芸品などが充実しており、歴史と文化、自然のまちである。その一方で、上田市は若い世代、特に大学生と地域全体との関わりが薄いために、若年人口の減少、さらに市内で就職を希望する学生の割合の低さなどの課題が存在し、深刻な問題となってきた。また空き家の数も年々増加しており、土地利用の面でも問題が深刻化している。

そこで私たちは空き家を使って、若者に上田市の魅力について何かアプローチできないかと考えた。年々増加している空き家を若者の交流スペースとして若者の居場所をつくり、若年層の人口減少に歯止めをかけることが目的である。その政策案というのが「シェアスペース」というものである。「シェアスペース」とは使用用途を限定せず、利用者のニーズに合わせてスペースを利用できるというものである。今回私たちが提案する「シェアスペース」は、シェアキッチン・宿泊施設・コワーキングスペース・生涯学習講座を提供する場所として定義する。シェアスペースとすることで、シェアハウスよりもリフォームする範囲が狭く費用も抑えることができ、実現可能性が高い政策といえると考えたため、シェアスペースを提案する。この提案をすることで、シェアキッチンでは地元の方を講師として料理教室などを開く、宿泊施設では別所温泉と提携し温泉付き宿泊施設とする、コワーキングスペースでは静かで落ち着いた環境での勉強場所の提供、生涯学習講座では、上田市各地区の公民館で開講されている一部の、周辺散策や料理体験事業を開講するといった、様々な用途で利用できるため多くの人の交流場所となることが期待できる。その結果大学生と地域とのかかわりを創出でき、上田市の魅力を若者も感じられて最終的に若者の移住・定住につなげる事ができる。つまり持続可能なまちをつくり上げることができると思う。

第1章 上田市の課題・現状分析及びテーマの定義づけ

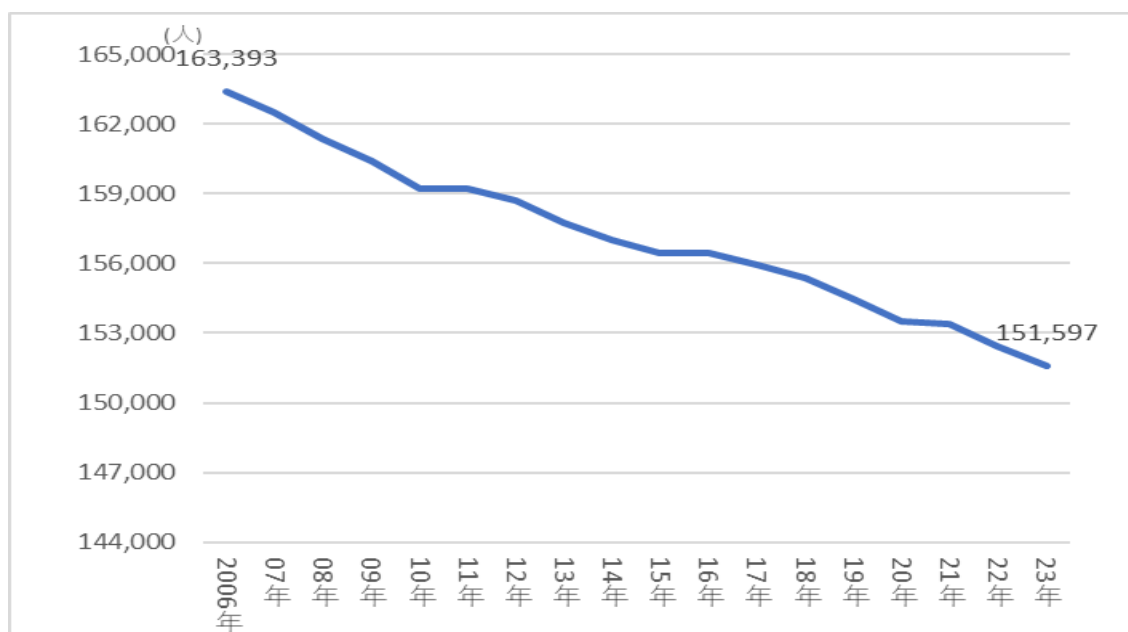
1節 上田市の現状分析

上田市は、長野県東部に位置する中核都市で、2006年3月6日に上田市、丸子町、真田町、武石村が新設合併して誕生した。面積は約552平方キロメートルであり、日本最長の千曲川や、夏・冬のスポーツリゾート地である菅平高原など、美しく雄大な自然があふれる地域である。奈良時代から、京都と東北地方を結ぶ「東山道」の拠点として栄え、現在はJR北陸新幹線、しなの鉄道、上田電鉄別所線が上田駅で接続し、上信越自動車道を有している。

上田市の気候は、昼夜、冬夏の寒暑の差が大きい典型的な内陸性の気候である。また、晴天率が高く、年間の平均降水量が少ない、全国でも有数の少雨乾燥地帯であるため、標高の低い平坦地では、水稲、果樹、花木などが、高冷地では野菜を主力とした生産が行われている。かつて「蚕都」として栄え、蚕糸業で培われた技術的基盤は機械金属工業に受け継がれ、現在では輸送関連機器や精密機器などを中心とする製造業が地域経済を牽引している。市内には、寺社などの文化遺産が多数あり、戦国武将である真田氏発祥の郷としても知られている。その他にも、温泉や伝統工芸なども充実しており、歴史と文化、自然のまちとして、訪れる人々を魅了している。

上田市ホームページによる¹と 2023 年 10 月 1 日時点で、上田市には 152,829 人が暮らし
ており、長野県で 3 番目に多い人口となっている。上田市の人口の推移は以下のグラフの
通りである。

図 1：各年 4 月時点における上田市の総人口推移



<出所>：上田市ホームページ「人口世帯数」より作成

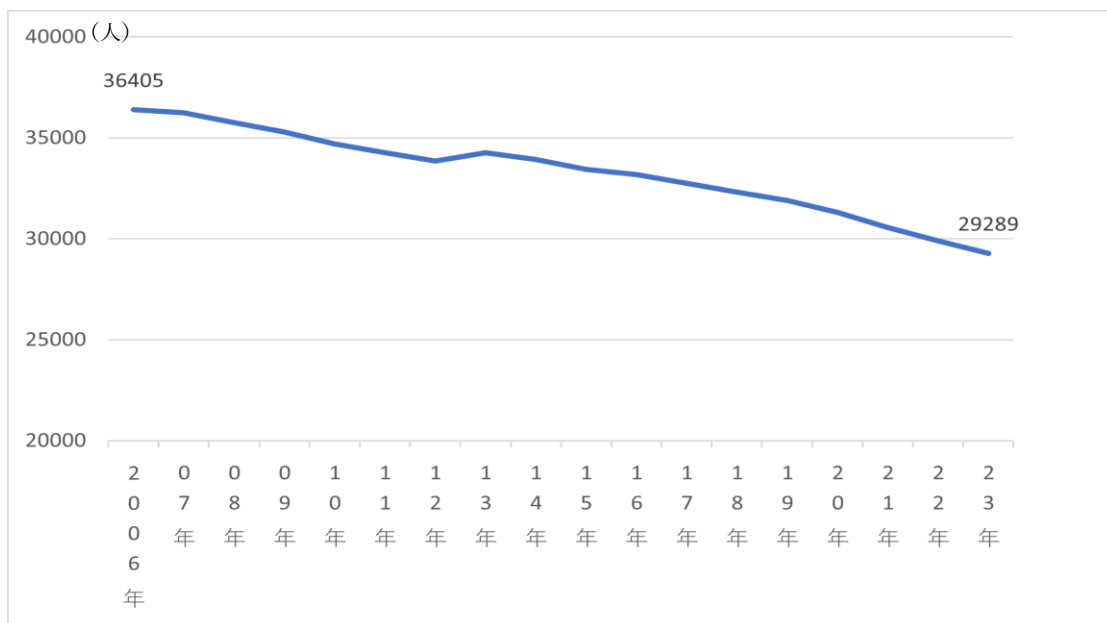
*注) 上田市合併前の年は 4 つの地域全て合わせた人口を表示

また、22 歳以下人口の推移は以下のとおりである。

¹ 上田市ホームページ「人口・世帯数」(更新日:2023/10/1)

<https://www.city.ueda.nagano.jp/soshiki/tokei/2948.html> (最終閲覧日:2023/10/12)

図2：各年4月時点における上田市の22歳以下人口推移



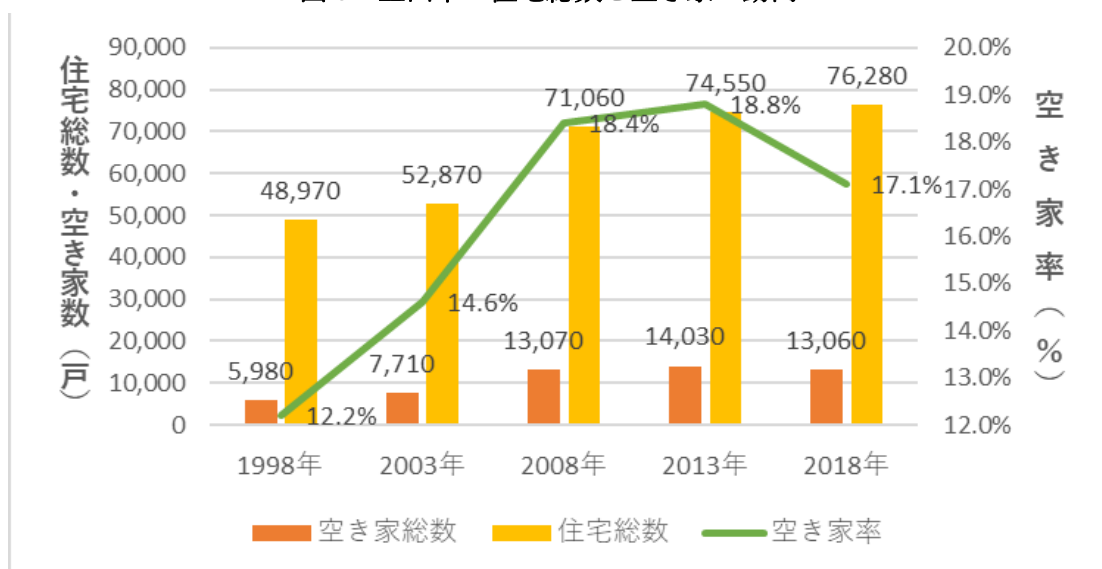
<出所>：上田市ホームページ「人口世帯数」「年齢別人口」より作成

*注) 上田市合併前の年は4つの地域全て合わせた人口を表示

図2より、22歳以下の人口は2006年より2023年現在も減少しており、割合としては約20%の減となっている。

また、上田の住宅総数および空き家率は以下のグラフのとおりである。

図3：上田市の住宅総数と空き家の動向



<出所>：GraphToChart. 「グラフで見る上田市の空き家数は多い？少ない？(推移グラフと比較)」. 最終更新:2021/04/12. (参照日時:2023/10/12)より作成

上記をみると、住宅総数は年々増加しており、空き家総数は 2008 年より横ばいである。しかし、新築住宅が年々増えていることと空き家利用者が増加したことで、2013 年までの空き家の増加傾向は 2018 年で減少に転じた。しかし、空き家総数は横ばいであるため、19 歳以下の人口減少、全体の人口減少問題を加味すると空き家数の大幅な減少は期待できないと考える。上田市では、子育て支援で保育料の減免や高等学校通学費等補助と手厚い政策をうっている。また、若い世帯を増やすために転入者世帯向けの子育て支援事業として転入者の集いを実施している²。

2節 上田市の課題

第 1 章 1 節より、人口増加にむけて子育て支援や転入者増加を狙った政策は多く実施されている。しかし、若者、特に大学生へのアプローチが乏しいと考えられる。

実際に日本経済新聞社³の 2019 年 6 月 12 日の記事によると、上田市の大学生が県内出身の 7 割が定住を望んでいないことがわかる。

その記事の中の長野県上田地域振興局がまとめた 2018 年度の「若者の定住・就業促進策の研究」によると、県内出身で上田市の大学（短大含む）に通う学生の 7 割強が卒業後に定住（移住）を望んでいないことがわかった。県外出身者の場合は 9 割弱の学生が望んでいなかった。人口減などで地域の労働力不足が深刻化するなか、若者にとって魅力ある町づくりが急務になっている。実際の上田駅周辺や、長野大学をフィールドワークで訪れた際、空きテナントが多く見られ、大学周辺に学生向けの飲食店が少ないという感想を持った。

これより、上田市には長野大学、信州大学繊維学部、上田女子短期大学、長野県工科短期大学校があるにもかかわらず上田市の企業を就職先として魅力を感じていない現状がある。また、企業だけでなく上田市に居住している際に地域の方との交流不足や地域特色の実感が乏しいことから、地域愛を育むことができていない点も影響していると考えられる。

以上のことより、若者向けの政策が乏しい結果、上田市に永住したい若者が少なく、教育機関が多く存在するメリットを活かせていない点を課題として捉える。

3節 テーマの定義づけ

私たち田村ゼミナールは若者の移住・定住を促進する政策を通して、地域経済の循環や住民同士の関わりの強化を図り、地域の再興を目指している。図 3 は今回のテーマである「人口減少時代の持続可能なまちづくり」に対して上田市の現状と課題をまとめた図である。人口減少時代を背景に「持続可能性」と「まちづくり」に二分化しそれぞれに対応する現状と課題を述べる。「持続可能性」の面においては、1 章 1 節、2 節で述べた通り若年人口の減

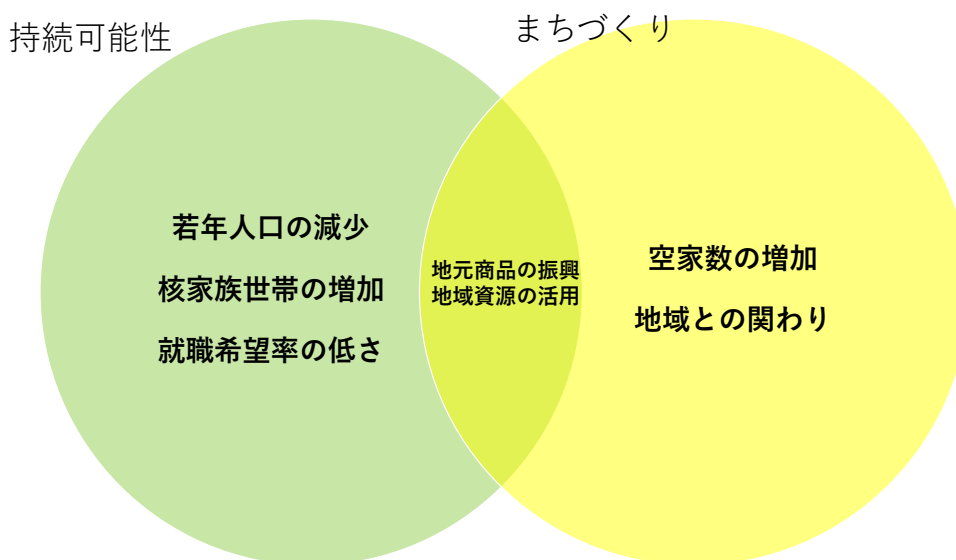
² 上田市「政策企画課」<https://www.city.ueda.nagano.jp/soshiki/kikaku/>（最終閲覧日:2023/10/12）

³ 日本経済新聞社「上田市の大学生、県内出身の 7 割が定住望まず」2019 年 6 月 12 日
<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO46008090S9A610C1L31000/>（最終閲覧日:2023/10/12）

少、就職希望率の低さなどが現状や課題として挙げることができる。若年人口の減少が就職希望率の低下に起因しており、若年人口の活動が活発でなければ持続可能性を確保できないと考えた。現在のニーズを確保するだけでなく、将来の資源や環境を確保するためには若年人口の課題の解消が必要不可欠であると考えた。「まちづくり」の点においても1章1節で述べた通り空き家数の増加が現状の課題として挙げることができる。「まちづくり」の観点において地域との関わりが減少しており、住民が快適に過ごせる空間が少ないと考えた。また、「持続可能性」と「まちづくり」には因果関係があると考え、空き家を活用したシェアスペースの提供を行うことで地域住民の交流の場、地域経済の循環基盤、地元商品の振興方法の創出をする。このプランによって地域の持続可能性なまちづくりに貢献することを狙いとしている。

また、今回政策案として挙げるシェアスペースの4つの用途において定義する。シェアキッチン、今回取り扱う物件のキッチンとダイニングルームを利用し、高齢者や大学生向けに提供するもので、キッチンを利用して自らが事業を行うのではなく、利用者のためのシェアキッチンであると定義する。宿泊施設は、1泊2日の短期間での受け入れを行い、公共交通機関や別所温泉の利用を進め地域経済に貢献するものとして定義する。コワーキングスペースは起業を視野に入れている学生や社会人などの意見共有の場や学習スペースである観点と定義する。生活講座は、現在公民館などで行われていると同様の活動を行いつつ、学生・社会人・子ども・高齢者の全世代の関わりを生み出す場と定義する。

図4：持続可能性とまちづくりの観点における課題



出典：図1・2より筆者作成

第2章 空き家を活用した若者と地域の共存・交流の場

1節 政策プラン概要

私たちの政策プランは、「空き家を活用した若者と地域の共存および交流の場づくり運営」である。より本市が地域と若者のつながりが強く、将来を見据え持続可能性のあるまちづくりのために地域交流の場、地域経済の循環基盤、地元商品の振興方法の創出を目的とし、シェアスペースの提供を行い本市の地域活性化を目指す中長期的な計画だ。シェアスペースは、空き家の利活用により値段を安くかつ、空き家問題へのアプローチでもある。

対象家屋の選定においては、上田市内で空き家バンクに登録された対象家屋を選び、補助金などを活用しながらリフォームを行い、安全性の担保および運営を行う政策を行う。ただし、立地に関して、若者を対象とした政策であることから、対象者が集まりやすく目に留まりやすいであろう中心市街地、上田駅周辺の地域に絞ることが、多くの住民が参加可能であると考えられる。したがって、該当地域の空き家を選択する。ターゲットは上田市民全体に向けたものである。

本政策の核は持続可能なまちづくりであり、衰退しない地域を創造するには地域と人が密接に結びつくことが重要である。地域と人が分離し、地域を人がただただ「住む場所」ととらえてしまえば、地域への目が向けられず、愛着や執着がない故に個性が失われ、衰退していくことは容易であろう。したがって、地域と人を結びつけることにより、結びつきを強固にするとともに、特に大学生などの学生に焦点を当てて共同生活の場と生活体験の場を創出し、若者の定着を目的とし、上田市全体の活性化を目指していく政策である。

2節 提案背景

上田市には、若い世代、特に大学生と地域全体とのかかわりが少ないことが原因となり、若年人口の減少に加え、市内で就職を希望する学生の割合の低さなどの課題が存在することが分かった。また、土地利用の面としては、空き家数の増加という課題が存在することが明らかである。

このような課題を踏まえて、私たちが提案するプランは、「空き家を活用した若者向けのシェアスペースの提供」である。シェアスペースとは、空き家をリフォームし利用者の用途に応じてシェアキッチンやシェアハウスとして利用できるようにするものである。大学生と地域とのかかわりを創出するため、そして空き家を有効に活用するため、現地調査を実施した上田市街地の緑ヶ丘地域を例にして政策を提案する。

以上の背景から、上田駅周辺の空き家を活用し、大学生などの若者と地域の人々との交流を創出することがふさわしいと考える。

3節 具体的な政策案

空き家の活用としては「宿泊施設」「シェアキッチン」「生活講座の開催」「コワーキングスペース」の、4つのスペースとして利用が出来ると考える。

構想当初は「シェアハウス」としての活用を考えていたが、空き家を管理している不動産会社によると、風呂・シャワーの増設リフォーム代約 100 万円、部屋の分割リフォーム代約 45 万円、駐車場設備代約 20 万円など、リフォームだけで多くの費用が掛かってしまうことが分かった。対象の空き家をシェアハウスとして利用するためには水回り、個室への分割など多くの部分をリフォームする必要があるため、現状の間取りをそのまま生かすことが出来るシェアスペースとして利用の方が適切だと考えた。またシェアスペースとして

活用することで、複数の用途で利用者を集客することが出来ると考えた。

1項 宿泊施設

まず、シェアスペースとするところによって、短期間の宿泊施設として活用できると考える。利用方法としては長期的な宿泊ではなく、1泊や2泊の滞在を目的としている。宿泊場所としては対象の空き家の別館を想定しており、別館の入口にカギを設置することで、別館全体で宿泊できるような整備にする。また、対象の空き家には風呂場がないため、別所温泉と提携し往復の送迎バスを手配することで、温泉付きの宿泊施設として利用することが可能である。この利用方法により、空き家の区画を現状のまま使えるためリフォーム代を削減できるだけでなく、観光資源である別所温泉をよりアピールすることが出来るというメリットがあると考ええる。

また、空き家へのアクセス方法としては上田市街地循環バスを利用し八幡北バス停までバスで移動するといった、公共交通機関でのアクセスをこちらから推奨する。そこからの移動はこちらから用意する。

2項 シェアキッチン

シェアキッチンでは、キッチンとダイニングルームを提供し、上田市で生産された物を使って料理を作り、その場で全員と一緒に食事をする、料理教室を開くといった活用ができると考える。料理教室の一つとして、地域に住むお年寄りを講師として上田市の伝統料理を学ぶというものを提案する。また他にも、一人暮らしをしている大学生、新社会人を対象とした、一人暮らし向け料理教室を地域の方々に講師として開いたり、子供も一緒に参加できる料理教室を開いたりするのも良いのではないかと考える。上田市で生産された食材を使う事で、上田市の生産者の方に貢献でき、その食材の良さを知ることができる。伝統料理を学ぶことで伝統が続いていく。全員で一緒に食事することで、人と一緒に食卓を囲む楽しさを感じてもらい、若者達の一つの居場所になればと考える。これによってシェアキッチンでは子供と若者、地域の方々との交流を生み出す事ができ、上田市についての話をゆっくり聞ける機会となり、上田市の魅力に気づききっかけとなると考える。

3項 生活講座

生活講座においては上田市が管轄している公民館事業の一部である生活講座の実施をこのシェアスペースでも行うという取り組みである。上田市の各地区の公民館では、琴などの音楽体験やヨガなどの健康運動体験、料理体験など様々な生活講座が開講されている。その生活講座の一部を私たちが運営するシェアスペースで開講するというものである。シェアスペースが分布する緑ヶ丘地域周辺の散策やシェアスペース内で利用可能なキッチンを利用した料理体験事業の開講を行うことを考えている。また、私たちが所属している長野県立大学では食事や栄養に関して学んでいる食健康学科や保育園などの教育に関して学んでいる子ども学科があり、その学科に在籍する生徒や教授を生活講座の講師として生活講座を実施し、講座を利用する高齢者や子供との関わりを増やすことができる。

4項 コワーキングスペース

シェアスペースの活用方法として、コワーキングスペースを例にあげる。コワーキングスペースとは、人々が相互交流を促進するための場所である。コワーキングスペースを設けることで、さまざまな年齢や職種の人々が、気軽に交流する場所を提供することができる。対象の空き家は、見晴らしの良い場所にあるため、上田の景色を楽しみながら作業をすることができる。また、部屋数が多いという点から少人数や個人の作業も可能である。これらのことから、オープンスペースとしても個人用の区切られたスペースとしても、利用者のニーズにあわせて、コワーキングスペースとしての場所を提供することができる。さらに、利用者が快適にコワーキングスペースを使えるようにするため、私たちはフリーWi-Fiやコピー機といった設備を充実させたいと考えている。このように、仕事をしやすい環境を提供することで、住民同士の交流を促進できると考えられる。

表1：シェアスペースの活用一覧

活用方法	使用用途
宿泊施設	<ul style="list-style-type: none"> ● 1泊2日の短期滞在用 ● お風呂は別所温泉を利用
シェアキッチン	<ul style="list-style-type: none"> ● 空き家のキッチンとダイニングを提供 例) 地元産の食材を用いた料理教室の開講
生活講座	<ul style="list-style-type: none"> ● 公民館事業の生活講座を実施 例) 長野県立大学食健康学科の生徒による料理教室
コワーキングスペース	<ul style="list-style-type: none"> ● ふすまの仕切りを利用し、オープンスペースと個人用スペースとして利用 ● コピー機やWi-Fiなどの環境設備

第3章 運営方法

1節 実施体制

先ほども述べたように参加者には基本的には公共交通機関で空き家まで来てもらうよう推奨するが、バス停や駅からはこちらから送迎を用意する。また宿泊として利用する場合には、別所温泉への送迎が必要になるが、その際にはあらかじめ迎えに行く時間を利用者と相談し、温泉と空き家へ往復してもらうようにする。運営者による送迎の際に、使用者がシェアスペースのカギの受取・返却をできるようにする。そうすることで、シェアスペースの不正利用を防ぐことができる。

次にシェアスペースを利用したい場合の予約の仕方について述べていく。予約の方法はシェアスペースの予約サイトを作り、サイトから予約してもらう形になる。そこにはシェアスペースの紹介や場所、利用料金などを載せる。さらにこのサイトでも料理教室や生活講座の参加者を募集したいと考えている。このサイトは、多くの人の目につくように上田市の公式ホームページに載せてもらい、誰もがアクセスできるようにと考えている。またシェアス

ペースの予約状況も随時更新していき、予約できる日を分かりやすくする。基本的にキッチンの利用がある日、ある時間は宿泊やコワーキングスペースなどは利用できない、宿泊の利用者がいる場合は他の人がキッチン、コワーキングスペースを利用することができない、といった形で全て貸し切り状態となる。

第4章 実現可能性と効果

1節 経済的実現可能性について

1項 料金設定

第三章で論じた実施体制に基づいて期待できる経済効果は、それぞれの利用量を決めて考えていく。宿泊としての利用料は一泊大人 4,000 円、子供 1,500 円とする。この料金の中には別所温泉の料金も含まれているので、実質利用者は無料で温泉を利用することが出来る。シェアキッチンの利用料は一日 300 円とする。宿泊の際キッチンを利用する場合の利用料は 100 円とする。コワーキングの利用料は 1 時間 200 円、一日 1,500 円として、中学生以下は無料で貸し出す。生活講座の利用料は 0 円～3,000 円として、週に 2～3 回開講する予定である。参加費を参加者から集める場合は 50%を講師に謝礼金を渡し、残り 50%を利益とする。

この料金設定を基に、一か月の宿泊としての利用者を 10 人(そのうち大人 6 人小人 4 人)シェアキッチンの利用を 5 人(そのうち宿泊者が 3 人利用)、コワーキングスペースの利用を五時間の利用を行う顧客が 5 人、全四回の参加費が 2,000 円である生活講座にそれぞれ 10 人参加したと仮定すると、表 2 の通りとなる。

表 2：利用料金及び、仮定した利用人数の利用料合計

利用用途	一人当たりの料金	一時間当たりの利用料	利用人数	合計
宿泊	大人4,000 小人(中学生以下)1,500		大人6人小人4人	30,000
シェアキッチン	300円 (宿泊を利用している場合は100円)		5人(そのうち3人宿泊者利用)	900
コワーキング		200円 (一日利用する場合1,500円)	5時間の利用が5人	5,000
生活講座	0～3000円		40人(各回10人ずつ参加)	40,000
				75,900

ここでこの料金設定と過程を用いてこの政策が実現可能的かについて述べる。

表 2 より 1 年間の利益は 75900 円×12 ヶ月=910,800 円となる。リフォーム費用に関して、不動産会社によると、今回取り扱う物件はリフォーム全体で約 1000 万円費用がかかることが分かった。この費用から 2 章 3 節で述べたシェアハウスとして運用した際に必要な費用を差し引くと費用が約 800 万円かかる。この費用に対して長野県と上田市から資金提供を依頼し県から 1/4=200 万、市から 1/3 強=300 万ほど補助をしてもらい、残りの 300 万円分を今回の事業の利益で賄うことを考える。利益のうち、50 万円分を残りの費用の補填をすると仮定すると 300 万円分を返すのに約 6 年かかる。

この事業は中長期的な事業計画であるので、十分に利益を生むことができる事業である

と考える。

2節 政策効果

上田市は、持続的発展のまちづくりを目指し、第二次上田市総合計画・後期まちづくり計画を掲げている⁴。これに基づき、政策効果を述べていく。

私たちの提案は、それらの計画で、将来都市像として挙げられている、「ひと笑顔あふれ」と「輝く未来につながる」の部分に当てはまると考える。前者では『誰もが暮らしやすい笑顔あふれるまちづくり』を目指している。私たちの政策は市民が様々な目的で使用できるシェアスペースであるため、市民の要望を反映させることで、暮らしやすさや満足度が高まるのではないかと考える。後者では『市民の力強い活動と若者が集まるまちづくりによって、未来に向けて、まちの活力、魅力、輝きを高める』ことを目指している。私たちの政策では若者による利用を促進させることで、さらなる地域交流の向上に繋がるのではないかと考える。

具体的な取り組みとして、子ども向けの生涯学習は、まちづくり計画第5編に当てはまると考える。上田市は、次代を担う人づくりのために、教育環境の整備と地域ぐるみの教育推進を掲げている。私たちは、シェアスペースを活用し、上田市の伝統や、社会教育、文化教育などの生涯学習を提供したいと考えている。このように、シェアスペースで、生涯学習をおこなうことで、学校以外でも子供たちが学ぶ場所をつくることができる。また、この取り組みに地域住民が参加することで、地域全体での生涯学習をすることができると考える。

また、まちづくり計画 1-1-1にある「地域資源を生かした地域の魅力アップ」にも繋がるのではないかと考える。私たちはこの「地域資源」を自然や文化財に限定するのではなく、既に使われなくなった空き家を地域資源ととらえることで、上田市でも増加している空き家を再利用すると捉えている。空き家をシェアスペースとして再利用することで地域交流を促進し、地域の活性化に繋ぐことで上田市の魅力を向上させることに繋がると考える。

第5章 統括

本編では、「人口減少時代の持続可能なまちづくり」というテーマに基づき、上田市内の空き家の活用としてシェアスペースとして活用することを提案した。対象の空き家に元々備わっているキッチンを利用できるだけでなく、別館を宿泊施設として利用するといった元々の構造を生かした利用方法を提案した。ただの空き家の貸し出しではなく、使用内容を4つに分割することでより多くの世代の人に利用してもらい、老若男女を問わない交流場所の提供や伝統文化の継承を可能にするのではないかと予想している。

この提案は、高齢者や子供といった多くの世代に利用してもらうことを予定している。それにより世代を超えた交流が可能になると考える。様々な利用者が各々の趣味などのために空き家を利用することで、空き家の再利用や世代を超えた交流の創出につながると考え

⁴ 第二次上田市総合計画 後期まちづくり計画

<https://www.city.ueda.nagano.jp/uploaded/attachment/30026.pdf> (最終閲覧日:2023年10月10日)

る。特に、若者の各世代との交流の創出につながると考える。使用用途として生涯学習を挙げたが、これは講師と生徒に分けられるため、大学生×小学生、大学生×高齢者、高齢者×若者といったように多くの組み合わせによって地域交流をすることが可能である。それだけでなく、上田の伝統文化を継承する場としても利用することが出来る。それは郷土料理を題材にした料理教室のみならず、別所温泉と提携するため、上田市の伝統文化の継承や観光資源の魅力を伝えることが出来る。つまり、上田市の地域間の印象や文化面で大きなメリットを提供することが出来ると思う。

しかし、本文で述べたように空き家のリフォームや維持費など多くの費用が掛かってしまう。また、提案政策は中長期間の運営として計画したため、準備期間だけでも長くなってしまう。そのため、準備期間を含めた上で、経済的にも期間的にもより実現可能性の高い政策案にすることが課題であると思う。

謝辞

現地調査の実施に当たっては、上田市役所住宅政策課をはじめとする多くの皆様からのご協力をいただきました。お忙しい中、現地調査やそれにかかる対応等でお力添えをいただいたことに、この場を借りて深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

参考文献

- ・ 上田市ホームページ「上田市ってどんなところ？」(更新日:2023/1/10)
<https://www.city.ueda.nagano.jp/soshiki/kanko/5606.html> (最終閲覧日:2023/10/12)
- ・ 上田市ホームページ「人口・世帯数」(更新日:2023/10/1)
<https://www.city.ueda.nagano.jp/soshiki/tokei/2948.html> (最終閲覧日:2023/10/12)
- ・ 上田市ホームページ・人口・世帯数「年齢別人口」2006年～2023年のデータ使用
<https://www.city.ueda.nagano.jp/soshiki/tokei/2948.html> (最終閲覧日:2023/10/12)
- ・ 上田市・政策企画課「上田市総合計画」「上田市教育行政」
<https://www.city.ueda.nagano.jp/soshiki/kikaku/> (最終閲覧日:2023/10/12)
- ・ 上田市「第二次上田市総合計画 後期まちづくり計画」
<https://www.city.ueda.nagano.jp/uploaded/attachment/30026.pdf> (最終閲覧日:2023年10月10日)
- ・ GraphToChart. 「グラフで見る上田市の空き家数は多い？少ない？(推移グラフと比較)」(更新日:2021/04/12) <https://graphtochart.com/japan/ueda-shi-no-of-vacant-houses.php> (最終閲覧日:2023/10/12)
- ・ 日本経済新聞社「上田市の大学生、県内出身の7割が定住望まず」2019年6月12日
<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO46008090S9A610C1L31000/> (最終閲覧日:2023/10/12)